



戦争をさせない
Anti-War Committee of 1000
1000人委員会

1000人委員会ニュースNo.36

(2015年9月30日号)

〒101-0063 東京都千代田区

神田淡路町1-15 塚崎ビル3階

TEL:03-3526-2920

FAX:03-3526-2921

【行動提起】戦争法廃止・立憲主義擁護のための 「戦争をさせない 1000 人委員会」声明

2015年9月19日、安倍自公政権は「戦争法」を衆参特別委員会での強行採決の末に成立させた。「戦争法案」をめぐるのは、元最高裁判所長官や元裁判官、元内閣法制局長官、全国の弁護士会、そして圧倒的多数の憲法学者が、「武力の行使」「戦争」「交戦権」を否定した日本国憲法に反する法案であること、憲法に反する法律を成立させることは近代法の基本原理である「立憲主義」にも反すると批判し、その成立に反対してきた。

多くの市民も「国民の命、平和な暮らしを守り抜くために必要な法制」などという安倍自公政権の虚言に惑わされず、海外での武力行使に加担する戦争法案の危険性に気づき、戦争法案反対の声を上げてきた。国会周辺や全国各地の戦争法案反対運動には、今までこうした運動に積極的に関わってこなかった若者や女性、労働組合に組織化されていない会社員も多く参加し、戦争法案廃止を強く訴えた。世論調査でも戦争法案反対の世論は多数を占めた。にもかかわらず、安倍自公政権は、主権者意志を無視し、多くの専門家の意見に耳を貸さずに戦争法を成立させた。

戦争法は、日本が攻撃されてもいないのに世界中での日本の武力行使を可能にするものであり、憲法前文や9条の平和主義に反する。憲法の実質的内容を空洞化する法律を制定することは「法的安定性」を阻害し、「立憲主義」にも反する。さらには、主権者意志に反する法律を成立させることは「国民主権」「民主主義」にも反する。このように、「民主主義」「立憲主義」「平和主義」を蹂躪して安倍自公政権が成立させた「戦争法」を、私たち「戦争をさせない 1000 人委員会」は断じて認めることはできない。「海外で戦争できる国づくり」をすすめる安倍自公政権は、戦争法成立に飽き足らず、沖縄県民の民意を無視してアメリカとの軍事的一体化を強化する、辺野古への新基地建設を強行している。さらには、来年の参議院選挙で憲法改正に必要な参議院での3分の2以上の議席確保、ひいては国民投票による憲法改正を目指している。

「戦争をさせない 1000 人委員会」は、秘密法制定、原発再稼働、そして戦争法成立と、主権者意志を無視し、市民の生命と安全を危険にさらす政治を続けてきた安倍自公政権を決して許すことはできない。私たち「戦争をさせない 1000 人委員会」は、立憲主義の原則を堅持し、戦争法廃止・発動阻止、沖縄辺野古への新基地建設阻止等、憲法9条に沿った平和を確立する運動に断固たる決意で取り組む。そして、子どもや孫の世代に平和な日本社会を引き継ぐため、「戦争法」を成立させ、「戦争できる国づくり」をすすめる安倍自公政権を断罪し、今後も徹底的に対決することを宣言する。



「違憲の戦争法廃止」「安倍政権退陣」の声を上げる
参加者（9月19日朝、国会正門前）

2015年9月30日
戦争をさせない 1000 人委員会

■【参院特別委・参院本会議で強行採決 戦争法案可決】強行採決糾弾！戦争法廃止！連日徹夜の抗議行動



国会正門前には連日3万人を超える人々が押し寄せて抗議の声を上げ続けた（9月17日）

戦争法案の採決を巡る国会内外での攻防が山場を迎えた9月16日から19日にかけて、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、連日数万人規模の抗議集会を国会正門前や参議院議員会館周辺で行いました。

地方公聴会が開催された16日の夕刻には、鴻池祥肇委員長が法案採決を前提にした総括質疑を開催しようとしたため、野党側は委員会室をふさぐなど徹底抗戦。この状況を受け、国会前に集まった参加者は、野党議員を応援するコールを響かせました。また、集会では国会から駆けつけた議員が逐次状況を報告し、国会内外で連携して闘っていくことを確認しました。17日の夕刻には、大混乱のなか与党による「強行採決もどき」が行われ、同日夜には政府・与党が法案を参議院本会議に緊急上程しました。これに対して集会参加者は、「強行採決もどきは無効」「戦争法案絶対廃案」と猛抗議。夜になっても人の流れは止まらず、国会周辺は抗議に駆けつけた市民であふれかえりました。18日も朝から夜まで抗議集会が続けられ、戦争法案の廃案と安倍政権の退陣を訴える抗議の声が国会周辺を包み込みました。夜が近づくにつれ、人の波はふくれあがり、19時半の時点で4万人を超える人々が結集。18日深夜から参議院本会議で戦争法が強行採決された19日未明まで、夜を徹して「憲法違反」「安倍政権退陣」など怒りのコールが続きました。

19日も朝から国会前で集会が開かれ、参加した市民らは、最後まで戦争法に徹底的に抗議するとともに、「安倍政権退陣」「戦争法廃止」を勝ち取るまで闘う決意を固めました。



参院本会議での強行採決と法案成立の直後、国会前で一齐に「憲法違反！」のシュプレヒコールを繰り返した

（9月19日未明、参議院議員会館前）

【9.16-19 国会周辺・怒りの抗議】

強行採決糾弾！ 戦争法案廃止！ 安倍政権退陣！



【9月17日夜・参議院議員会館前】
国会に向かって抗議の声を上げる参加者



【9月16日夜・国会正門前】3重、4重に並びデモを規制する警官隊



【9月16日夜・国会正門前】警察は国会正門前の道路の両脇に装甲車やバスを並べて塞ぎ、抗議の市民を歩道に押し込めた。参加者は警官隊と激しく対峙し、公務執行妨害等の容疑により、この日だけで13名が不当に逮捕された



【9月19日未明・参議院議員会館前】
法案可決後、福山哲郎議員（民主党・幹事長代理）が涙ながらに挨拶した。「多様性を大切にし、皆さんの言いたいことがいつでもどこでも言える国に戻さなければいけない。今回の強行を決して忘れない。何としてもこの国の戦後の70年を取り戻すために、もっともっと頑張ろう。ここに集まる皆さんのおかげで、勇気を出して声を上げられる人がたくさんいる。ここからがスタートだ」



【9月19日朝・国会正門前】一夜明けた朝も、多くの市民が「憲法違反の戦争法廃止」を訴えて怒りの声を上げた

■9.16-19 集会参加の国会議員・著名人らの発言(抜粋)



【9月16日】香山リカさん(精神科医) 学徒出陣で亡くなった学生や原爆の犠牲者、シベリア抑留から帰れないまま命を落とした人たちは、再び戦争に向かうな、憲法を変えるなど叫んでいるはずだ。安倍政権はどうしてその死者の声が聞こえないのか。聞こえないふりをしているのか。そうだとしても死者の怒りは必ず安倍総理に届くはずだ。例え強行採決しようとも、平和を願いながら先に旅立っていった人々の声を、私たちはずっと届け続けなければいけない。

【9月17日】石田純一さん(俳優) 攻められたらどうするんだ、ということメディアやネットで聞く。しかしそれは、個別的自衛権で何とかなる。アメリカは確かに同盟国であるが、わざわざ中近東に行って彼らを助ける必要があるのか。我々は世界が誇る平和国家だ。戦後70年経った。我々の子どもたち孫たちがずっと平和に暮らしていけるように、これを100年、150年にしていきたいと思う。この国を守るには個別的自衛権だけで十分だ。なぜわざわざ集団的自衛権が必要なのか。そんなにアメリカの機嫌を取りたいのか。アメリカは我々の友達であり同盟国だ。でも、間違っている、おかしい、そういうことを友達ならちゃんと言えなければおかしい。先の世界大戦で310万人の尊い命が失われた。インパール作戦では20万人の日本兵が出て行って、帰って来たのはたったの2万人だ。18万人が飢えと病気と弾丸で亡くなった。「戦争は文化じゃない!」。絶対に、我々が誇るべき平和をずっと続けていこう。



【9月17日】室井佑月さん(作家・コメンテーター) 今日は皆さんにお願いがあってこの壇上にのぼっている。今、本当に間違ったことが色々行われている。どことは言わないが、きちんと私たちのことを報道してくれないメディアがある。でも、その中でも自分の良心のもとに対決している方もいるし、頑張っている記者の方もいる。ぜひ、良い記事を見つけたら、その記事を応援するような意見を送ってほしい。私はメディアで仕事をしているが、多くのテレビに出ている人間や物書きは今の政府のやり方に不満を持ち、反対し、怖がっている。まだ声を上げられない人がたくさんいる。良い記事やテレビで良いコメントをした歌手や女優さんを見つけたら、

応援のメールなどを送ってほしい。最後まで頑張ろう。

【9月18日】落合恵子さん(作家) 私たちの父や母や、そのまた父や母が、一生懸命に水をやってお日様にあてて育ててきた民主主義を、一部の人間に踏みつぶさせてはいけない。心に刻もう。与党はもとより、次世代の党、日本を元気にする会、新党改革、すべての議員を落とすと。彼らこそ、すべてを破壊した、民主主義へのテロリストだ。一人一人が民主主義を取り戻すパイオニアになろう。誰をも犠牲にしない社会を作っていこう。



■9.24 戦争法廃止 国会前連続集会(第19回)

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会は、9月24日、国会前連続集会の第19回目を国会正門前で開催しました。5月21日から5ヶ月間の連続行動の最終日となったこの日は約5000人の市民らが参加しました。この日もあいにくの雨にも負けず、強行採決された戦争法に対して、強く廃止と発動阻止を求めて抗議の声を上げました。集会では、民主党の枝野幸男幹事長、社民党の吉田忠智党首、共産党の志位和夫委員長、生活の党の主濱了副代表ら国会議員も駆けつけ、アピールを行いました。また、1000人委員会呼びかけ人の山口二郎さん（法政大学教授）や、山岸良太さん（日弁連憲法問題対策本部）、SEALDsの学生らがスピーチを行いました。



雨の中「戦争法廃止」を訴えてシュプレヒコールを上げた（国会正門前）

集会では、民主党の枝野幸男幹事長、社民党の吉田忠智党首、共産党の志位和夫委員長、生活の党の主濱了副代表ら国会議員も駆けつけ、アピールを行いました。また、1000人委員会呼びかけ人の山口二郎さん（法政大学教授）や、山岸良太さん（日弁連憲法問題対策本部）、SEALDsの学生らがスピーチを行いました。

枝野幸男議員（民主党幹事長） 私たちの力不足でこうした状況になってしまったことを、特に責任の大きい野党第一党として、心よりお詫び申し上げます。私たちの民主主義は終わりがあるわけではない。憲法違反の法律は許してはならない。立憲主義の破壊は許してはならない。憲法違反の法律は運用させず、廃止する。そのために、共に闘っていきましょう。

志位和夫議員（共産党委員長） 憲法違反の法律は何としても廃止する。そのために、今度の総選挙で戦争法を廃止する勢力が多数を占める必要がある。そのためには野党がまとまらなければならない。皆さんに世論と運動でその後押しをしてほしい。立憲主義、民主主義、平和主義を貫く新しい政治を一緒に作ろう。

吉田忠智議員（社民党党首） 戦争法の強行採決にあらためて強く抗議したい。安倍政権を許すわけにはいかない。衆議院、参議院でこの法案に賛成した議員は、二度と国会に戻さない。私たちの闘いは今日から始まる。戦争法の廃止、これをあくまでも目標にして行動を展開していきましょう。反省と総括をしっかりとしながら、私たちの手で戦争法廃止の勢力を作り、選挙協力をしっかりとやっていきましょう。

主濱了議員（生活の党と山本太郎となかまたち） 法案が採決されても、集団的自衛権が憲法違反であることに変わりはない。この法案に賛成した国会議員を絶対に忘れることなく、次の選挙では選ばず、国会に来させないことが第一にすべきことだ。第二にこの法案を廃止するために政権交代をする必要がある。長い闘いが始まるが、野党一体となって頑張りたい。

山口二郎さん（法政大学教授） われわれの闘いの意義は、今の為政者の本当の姿を暴き出したことにある。彼らは国会における数以外何の正当性もない。しかも、そういう権力者のちょうちん持ちをする、哀れなメディアの実態も明らかになった。もう一つの意義は、野党を変えたということ。皆さんがいわば政治家を鍛えた。デモには意義などないと言う人たちは、国民が主権者として自覚をもって行動することを最も恐れている人たちだ。この違憲立法に対しこれからも闘っていきましょう。

佐藤学さん（学習院大学教授） 政府は南スーダンにPKOを派遣すると言っているが、その地域の石油の利権を握っているのは中国だ。日本の自衛隊はなんと中国人民解放軍の後方支援に行く。あれほど中国の脅威を煽ったのに、自衛隊は中国の軍のために闘う。しかも南スーダンの戦士の大多数は少年兵だ。自衛隊に子どもの命を奪わせてはならない。戦争は恐ろしい。絶対に私たちは戦争を食い止めなければならない。憲法9条を守り抜こう。

山岸良太さん（日本弁護士連合会） 日本弁護士連合会では、違憲な立法が行われてしまったことに対して、続々と会長声明を出している。この法案は違憲であるだけでなく、単純に欠陥が多い。われわれは法律家として、国会の審議の過程をきちんと取りまとめ、どういったいい加減な採決が行われたのかを明らかにする責任がある。法律が出来ても合憲になることはない。そもそも効果が発生しないことを訴えていきたい。

■ 「戦争法案」を葬ろう 9.17 集会



内田樹（神戸女学院大名誉教授）さんが講演

「夜明け前が一番暗い。今は夜明け前だ。しかしこれだけ暗いと崩れるのも早い。今の若い人たちはこの社会の仕組みはもう終わるだろうと直感的に気がついて、違う生き方を探して動き出している。私たちの予想もできないことが続発していくだろう。劇的な転換点に私たちはいる」と述べ、希望を捨てることのないよう訴えました。

講演後には、国会内で体を張って闘った江崎孝議員（民主党）や小西洋之議員（民主党）が駆けつけ、法案可決を巡る与野党の攻防や、今後の展望について報告を行いました。また、作家・コメンテーターの室井佑月さんも集会に駆けつけ、「声を上げたい著名人もたくさんいる。しかし、ネットでの嫌がらせなどがひどく、すくんでしまう。勇気を持って声を上げた人をぜひ褒めて応援してあげてほしい」と訴えました。

9月17日、戦争をさせない1000人委員会と立憲フォーラムは、参議院会館講堂で『戦争法案』を葬ろう 9.17集会を開催しました。集会では、「安全保障関連法に反対する学者の会」の呼びかけ人である、内田樹さん（神戸学院大学名誉教授）が講演を行い、安倍政権における政治の劣化を鋭く批判しました。講演の最後に内田さんは、

■ 「さあ、安倍政治を終らせよう」9.24 緊急院内集会

戦争をさせない1000人委員会と立憲フォーラムは、9月24日、参議院議員会館で「さあ、安倍政治を終らせよう 9.24 緊急院内集会」を行いました。5月19日から連続して開催してきた立憲フォーラム・戦争をさせない1000人委員会共催の集会は、この日で17回目。会場は満員の参加者で溢れました。



戦争法廃止への決意を述べた民主党・江崎孝議員（立憲フォーラム）

集会では、戦争をさせない1000人委員会の呼びかけ人である、山口二郎さん（法政大学教授）が、「この間、政党政治を変えようとしてきたが、この運動を通じて社会に根を持たなきゃいけないと改めて気づかされた」と語り、戦争法の廃止を強く訴えました。また、高野孟さん（インサイダー編集長）、早田由布子さん（「明日の自由を守る若手弁護士の会」事務局長）が講演を行いました。

立憲フォーラムの代表を務める近藤昭一議員（民主党）ら国会議員も多数参加し、戦争法の発動を許さず、廃止を目指す決意を訴えました。

■9.23「さようなら原発 さようなら戦争 全国集会」に2万5千人が結集



戦争法廃止や安倍政権退陣へのアピールも行われた（代々木公園）

の澤地久枝さん、鎌田慧さん、落合恵子さんらが登壇し、安倍政権を鋭く批判。作家の大江健三郎さんは、「私たちは非常に困難な状況にあるけれど、希望の兆候は見えていると思う。今大きな役割を果たしている学生や女性のグループが発する言葉は、すっかり新しいものだ。彼らの新しい言葉に望みをたくしながら、しかしこの大きい困難をあらためて自覚して生きてい



代々木公園を埋め尽くす2万5千人の参加者



く。皆さんのご健闘を心から、心から願っています」と力強くアピールしました。さらに、福島や鹿児島からの報告、戦争法案に反対した学生や学者、沖縄辺野古新基地建設反対運動などについて発言が相次ぎました。また、サブステージでも原発事故問題や基地問題などでのトークが行われました。集会後、参加者は渋谷と原宿の2コースに別れて、プラカードや横断幕などを手にアピールしながらデモ行進を行いました。

集会後にデモを行った（原宿コース）

【声 明】戦争法案の強行採決に抗議する

9月19日、政府・与党は強行採決に次ぐ強行採決を重ね、日本を海外で戦争する国にする憲法違反の戦争法を成立させた。私たちは満身の怒りを込めて抗議する。一内閣の恣意的な憲法解釈の180度の転換による戦争法は、それ自体、違憲・無効であり、立憲主義の大原則を否定するもので、断じて認めることはできない。私たちは、戦争法のすみやかな廃止を実現するため全力を尽くし、戦争法の発動を許さない世論と運動を発展させる。

「安倍の暴走」は同時に、沖縄での辺野古新基地建設や原発再稼働、教育の国家統制と歴史認識の歪曲、秘密保護法体制と個人情報への国家管理、消費税の引き上げとTPP、女性の人権軽視と労働者の使い捨てなど、あらゆる分野で進められている。私たちの運動は、まさにこれらと闘う人びととの共同・協力による「総がかり行動」でもある。



参院本会議での強行採決と法案成立に断固反対の声
を上げ続けた（9月18日深夜、参議院議員会館前）

この一年余、「戦争法案絶対反対」「9条壊すな」の声は全国津々浦々にひろがり、老若男女がこぞって行動し手を結ぶ歴史的なうねりとなってきた。最高裁長官や内閣法制局長官の職にあった人びとをはじめ、学者、法律家、宗教者、芸能人などを含むあらゆる分野で「戦争法案廃案」の声が湧きあがり、大学生や高校生、若い母親たちの主体的な行動とも響きあい、違いを超えた広範な共同行動が生み出された。私たち「総がかり行動実行委員会」は、このような運動の発展に一定の役割を果たすことができたことを誇りに思う。

この間、全国数千か所での人びとの行動を背景にして国会正門前を連日埋めつくし、国会を何度も包囲した人びとの波は、暴走する政府・与党に立ちふさがる巨大な壁となり、政府・与党を大きく揺さぶり、窮地に追い込んだ。この広範な人びとの声と行動こそが、民主・共産・社民・生活の連携を支え、野党の闘いを強めるという画期的な状況をつくりだした。ここに示された無数の人びとの意思と行動は、決してこれで終わることはない。このエネルギーは、必ず戦争法の発動にストップをかけ、戦争法を廃止する力となろう。私たちは、この人びとの力を信じ、希望として、前進する。

全世界の人びとの生命のために、平和のために、憲法を生かすために。

2015年9月19日

戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

【声 明】安倍政権の暴走に抗議する市民を抑圧する不当逮捕を許さない

2015年夏、安倍政権による集団的自衛権行使容認、戦争法制の制定に抗議する国会前の行動は大きな高まりを見せた。この行動の中で、8月30日の「国会10万人・全国100万人大行動」以降、参議院で戦争法案の強行採決がなされた9月19日未明に至るまでの間に、私た

ちが把握しているところによれば、公務執行妨害等の容疑で 20 名以上の市民が不当に逮捕され、身柄を拘束された。

とくに 9 月 16 日は、参議院の特別委員会で戦争法案が強行「採決」されたことに抗議し、多くの市民が国会前に詰めかけたことから、警備当局の対応が激化し、この日だけで 13 名もの市民が逮捕された。これは、立憲政治を否定する安倍政権に対する市民の正当な抗議を抑圧しようとするものであって、私たちは断じて容認できない。



不当に逮捕されて警察に連行されるデモ参加者
(9 月 16 日夜、国会正門前)

前記被逮捕者中、本日現在、なお 6 名の市民が勾留され、身体を自由を奪われている。私たちは、警備当局に対し、前記 6 名を直ちに釈放するよう要求する。あわせて、前記 6 名の救援活動をしている人々の要請を考慮しながら、私たちとしても、前記 6 名の釈放のために必要な行動をすることを明らかにする。

2015 年 9 月 24 日

戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会

※尚、この声明を発表した後の 9 月 25 日、6 名全員が釈放されました。

■みなさんからのメッセージ

- 福山議員が参議院の壇上でおっしゃったように、戦いには敗けたが、勝負には勝ったと思っています。いつか今日の採決をてこに、日本をアメリカの属国から平和と民主主義の国にする時が来ると思いました。
(新潟県 男性)
- 安倍政権はとうとう戦争法案を通してしまいましたが、これで負けるわけにはいきません。憲法違反の法案を廃止するまで頑張っていきましょう。

■集会・活動スケジュール

9 月 30 日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせて頂くことがあります。行動の詳細は 1000 人委員会ホームページ、または「戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会」のウェブサイト <http://sogakari.com/> をご覧頂くか、事務局までお問い合わせください。

10 月 1 日 (木) 18 時 00 分～ 浅沼稻次郎さんを追悼し未来を語る集会
場 所：日比谷公会堂
資料代：500 円
主 催：浅沼稻次郎さんを追悼し未来を語る集会実行委員会

10 月 8 日 (木) 19 時 00 分～ 総がかり行動 10.8 講演集会 (仮称)
場 所：文京シビックホール・大ホール

<事務局からのお願い>

各地域で活動されている皆さんの取り組み、1000人委員会の活動、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載します。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。